

PANEL54

公益社団法人 兵庫県建築士会 神戸支部

○支部長あいさつ

○支部役員・各委員会メンバーリスト

○令和5年度事業報告（研修委員会・青年委員会）



支部長挨拶

公益社団法人兵庫県建築士会神戸支部

支部長 佐々木 博司

日頃より公益社団法人兵庫県建築士会神戸支部の活動に対して、ご支援・ご協力を賜わりまして感謝いたしております。令和5年4月22日に支部長に就任いたしましてから早くも1年が経ってしまいました。まだまだ何も出来ていないと感じながら、日々を送っている状況です。

令和5年は、コロナ感染症対策からも開放され、自由に活動できるようになりました。そのことによる士会活動も活発になり、各支部・本部とも多様な事業を展開するようになってきました。少しは以前のような活気が蘇ってきたように感じています。神戸支部においても、コロナ期間には限られた事業にとどまっていましたが、事業の数も増え、活動内容も変化してきています。今後も、この流れを絶やすことなく継続していかなければならぬと考えています。

令和6年1月1日に、石川県能登地方を襲ったマグニチュード7.6の地震は、震度7を記録する場所もあり、近畿地方でも多くの方が揺れを感じたと思います。なかには、阪神・淡路大震災のことを思い出された方もおられたのではないかと思います。神戸支部として今後、能登地方の復旧・復興に向け様々な形で協力していく必要がありますし、阪神・淡路大震災を経験し復興をしてきた経験を基にした提言も可能なのではないかと感じています。その時には、神戸支部だけではなく、兵庫県全体で行動していくような活動を考えていきたいです。

建築業界では、2024年4月から建設業に適用される時間外労働の上限規制（2024年問題）が開始されます。震災の復旧・復興には適用されないようですが、工事現場・計画事業へ様々な影響が出てくることは確実で、建築士として、そのことを踏まえた考えをもつて行動していかなければなりません。

最後になりますが、公益社団法人兵庫県建築士会神戸支部では、講習会、見学会、セミナー、耐震相談等の様々な事業活動を通して、建築士の資質の向上に寄与すべく活動、努力をしていきます。今後も神戸支部の活動を見守って頂き、今まで以上に皆様のご理解、ご協力を願い申し上げます。

令和6年度役員

1. 神戸支部支部長（1名）

ささき ひろし
佐々木 博司

2. 神戸支部副支部長（4名）

あらかわ なおき 荒川 直樹	きゅうほう ひろゆき 久宝 弘幸	こき かずと 湖亀 一登	のぐち なおと 野口 直人
-------------------	---------------------	-----------------	------------------

3. 神戸支部理事（11名）

こうらい けんじ 高麗 憲志	ささき やすゆき 佐々木 康行	しばさき やすこ 芝崎 康子	たかはし としろう 高橋 利郎
つねみね ひろふみ 常峰 博文	てらだ みさと 寺田 みさと	まえだ さえ 前田 さえ	まきもと みつのぶ 槇本 光展

4. 神戸支部監事（2名）

あかざわ しょうご
赤澤 祥語

まえかわ しょうじろう
前川 象二郎

5. 神戸支部顧問（2名）

えびす たかし 戎 孝之	たなか よしゆき 田中 義之
-----------------	-------------------

令和6年度各委員会メンバー

研修委員会

委員長	佐々木 博司
副委員長	石田 敦、芝崎 康子、楳本 光展、
委員	佐々木 康行、瀬戸口 茂、常峰 博文、中居 博喜、 長谷川 明弘、前田 さえ、毛利 康人、 安水 正、山下 享子

青年委員会

担当副支部長	荒川 直樹、野口 直人
委員長	高麗 憲志
副委員長	川田 靖、中村 重陽
委員	石田 志野、神鳥 嵩之、高橋 利郎、寺澤 梓
相談役	寺田 みさと
顧問	上野 和彦

令和5年度神戸支部通常総会

副支部長（総務担当） 湖亀 一登

開催日時：令和5年4月22日（土）13:00～

開催場所：神戸市産業振興センター901号室

参加人数：通常総会 30名<前年24名>

懇親会 30名（内1名は明石支部から参加していただき懇親会費免除）

報 告：今年度は新型コロナウイルス禍を明けてようやく“通常”的な総会を開くことができました。

また懇親会も令和元年度依頼久々に開くことができ、会員相互の交流をはかることができました。

しかしながら、益々の高齢化とコロナの間の会員数減少に歯止めがかからず総会出席者の数は低調です。新規入会者の勧誘に力を尽くす必要をひしひしと感じました。



戎 前支部長あいさつ



佐々木 新支部長あいさつ



総会風景



懇親会風景

令和5年度 「歴史と環境」を学ぶ会 事業報告

・・・石清水八幡宮・水無瀬神宮と大山崎山荘美術館を巡る・・・

主催：公益社団法人兵庫県建築士会 神戸支部 研修委員会

■日 時：令和6年1月27日（土） 8:00～17:40

■内 容：石清水八幡宮・水無瀬神宮とアサヒグループ大山崎山荘美術館を巡り、歴史的な由緒ある神社の魅力ある空間を体感し、アサヒグループ大山崎山荘美術館の近代（現代の増築を含めた）建築に触ることで、建築に関わる日常業務等のスキルアップに努めることができました。

■場 所：石清水八幡宮・水無瀬神宮・アサヒグループ大山崎山荘美術館

■参加者：会員 16名、非会員 2名 合計 18名

■参加費：会員 6,000円、非会員 8,000円

今年度の「歴史と環境」を学ぶ会は、大阪府と京都府の境界部分に鎮座する石清水八幡宮・水無瀬神宮とアサヒグループ大山崎山荘美術館の近代（現代の増築を含めた）建築を巡ることが出来ました。

最初に、男山に鎮座する石清水八幡宮を訪問し、八幡市のボランティア2名による案内のもとケーブルに乗って、山上の本宮（楼門・本殿・摂社・末社など）・エジソン記念碑、山麓の頓宮・高良社・五輪塔（航海記念塔）を巡りました。2班に別れて、それぞれのボランティアによる詳しい説明・案内を受け、資料などでは知りえないことなども聞けて参考になりました。逆に、建築関係者からの特有な質問・視点に対して、ボランティアの方々にとっては新鮮だったようでした。



その後、昼食を頂いてから、水無瀬神宮を訪問しました。宮司様により、拝殿にて神宮の祭神や由緒についての説明を受けてから、茶室（燈心亭）の見学をさせて頂きました。後水尾天皇遺愛の茶室である燈心亭についても、宮司様より使用されている材料やこの茶室の特徴について詳しく解説して頂きました。

境内には、全国名水百選にも選ばれた「離宮の水」と呼ばれる井戸からの湧出する水があり、当日多くの方が汲みに訪れていて、今回の参加者も汲んでおられました。



そして最後に、アサヒグループ大山崎山荘美術館を訪問し、当日開催されていた藤田嗣治の展覧会も含めて常設の展示も見学することができました。大変ラッキーな時期だったと思います。

大山崎山荘は、実業家・加賀正太郎氏による別荘としての英國風山荘として建てられたものを、アサヒビール株式会社が京都府・大山崎町と協力して保存したもので、近代の貴重な文化財として洋風建築であり、美しい庭園と一体となったものです。そこに現代の増築（安藤忠雄氏設計）がなされて、平成8年春に美術館として開館しました。現状多くの方が訪れる施設として利用され、いろんな空間で貴重な体験ができる建築となっています。

今回は、見学時間の配分がうまく行かず、参加者にもご迷惑をかけたと思います。今後の見学会における見学時間については、もっと検証が必要だと痛感しました。今後も、もっと見たいと思える場所の見学・満足して頂ける事業が出来るように努力していきたいと思っております。(文：佐々木)



令和5年度 法規講習会

(公社) 兵庫県建築士会神戸支部研修委員会

(一社) 兵庫県建築士事務所協会神戸支部研修部 共催

- 開催日時： 令和6年2月6日（火） 13:30～16:00
- 開催場所： 兵庫県学校厚生会館2階大会議室（神戸市中央区北長狭通4丁目7-34）
- 参加者： 37名（会員33名、会員外4名）
- 受講料： 建築士会会員・事務所協会会員は3000円、会員外4000円

司会：(公社) 兵庫県建築士会神戸支部 芝崎 康子氏

開会挨拶：(一社) 兵庫県建築士事務所協会神戸支部副支部長 山田 享氏

■ 講演内容：

- ①「盛土規制法の規制区域の指定と運用開始について」

講師：神戸市建設局防災課宅地審査担当係長 三島 雅功様

- ②「神戸市市街化調整区域における規制緩和について」

講師：神戸市都市局都市計画課調整区域推進担当係長 藤田 直紀様

-休憩- (15分)

- ③「特別用途地区「すまい・まちなみ形成地区」について」

講師：神戸市建築住宅局建築指導部建築安全課指導係長 菅田 和彦様

- ④「建築物省エネ法の改正（令和4年6月17日）について」

講師：神戸市建築住宅局建築指導部建築安全課建築環境担当係長 吉川 正隆様

- ⑤「消防法施行令の一部改正等」

講師：神戸市消防局予防部査察課設備指導第1係長 福元 康介様

閉会挨拶：(公社) 兵庫県建築士会神戸支部支部長 佐々木 博司氏



令和 5 年度 関西大学村野建築見学会 事業報告

(社) 兵庫県建築士会神戸支部研修委員会

去る令和 6 年 2 月 24 日、関西大学千里山キャンパスの見学会を関西大学環境都市工学部准教授の橋寺知子先生のご案内で実施しました。

関西大学千里山キャンパスは、建築家村野藤吾が 1948 年から約 30 年にわたり継続的に施設の建築に関わった代表作であります。キャンパス内には鬼頭梓による総合図書館など他の設計者による施設も存在しますが、未だ多くの村野建築が現存しております。

この度の見学会では、キャンパス内でもその村野建築に的を絞って見学を行いました。

見学はまず関西大学に二つある旧円形図書館の簡文館からスタートしました。

村野藤吾の作品の中でも印象的な作品であり、現在は博物館として利用されておりますが、外観の塩焼きレンガや信楽焼タイルなど、原作の意匠を損なわずに丁寧に保存、活用されております。

その後、見学は第一学舎から誠之館、KU シンフォニーホールへと進みました。

第一学舎はもっとも古い建物群が現存するエリアで、塩焼きレンガ特有の色調がキャンパスに落ち着いた雰囲気を作っています。

誠之館周辺のエリアは部室棟や茶室など主に学生の課外活動の中心となるエリアです。村野流数寄屋建築が見られるのも貴重な体験です。

KU シンフォニーホールは元々講堂として建てられ、現在ではサークル活動などに利用されております。独特のユーモラスな形態で村野建築の中でも少し異色の存在です。

その後、第 4 学舎へ移動しました。第 4 学舎は主に工学部のエリアで、卒業生の参加者の方々は学生時代を懐かしんでおられました。外観は第 1 学舎の塩焼きから一転して白い磁器タイル貼りで、現代的でシンプルな意匠になっております。一見さりげない外観ですがタイルの質感や目地の扱いなど、村野建築らしいこだわりが見て取れます。

第 4 学舎の終わりにはもう一つの旧円形図書館である円神館に移動しました。こちらも村野藤吾の代表作で、エンタシスの付いた円柱で持ち上げられた円形の閲覧室からガ



簡文館



茶室



KU シンフォニーホール

ラスのキューブ型の事務室がぶら下げる特徴的な外観です。莊重でありながら、メタボリズムを連想させる現代的なデザインもあります。

そして、第2学舎、第3学舎、大学会館を見学し終了となりました。

関西大学は、終戦直後から村野藤吾の全盛期にわたる多様な手法を駆使してデザインされた建築群であり、それらを一望できるたいへん貴重な見学会であったと思います。

また、関西大学はその現存する棟数のみならず、極力原作のイメージを残そうと、丁寧な修繕、改修を行ってきたことが感じられます。橋寺先生を始めとする、関西大学の関係者の見識の高さと投じた努力には深く敬意を感じるところあります。

将来また、他の設計者の作品を含めた見学会でキャンパスを再訪できればと思います。



円神館

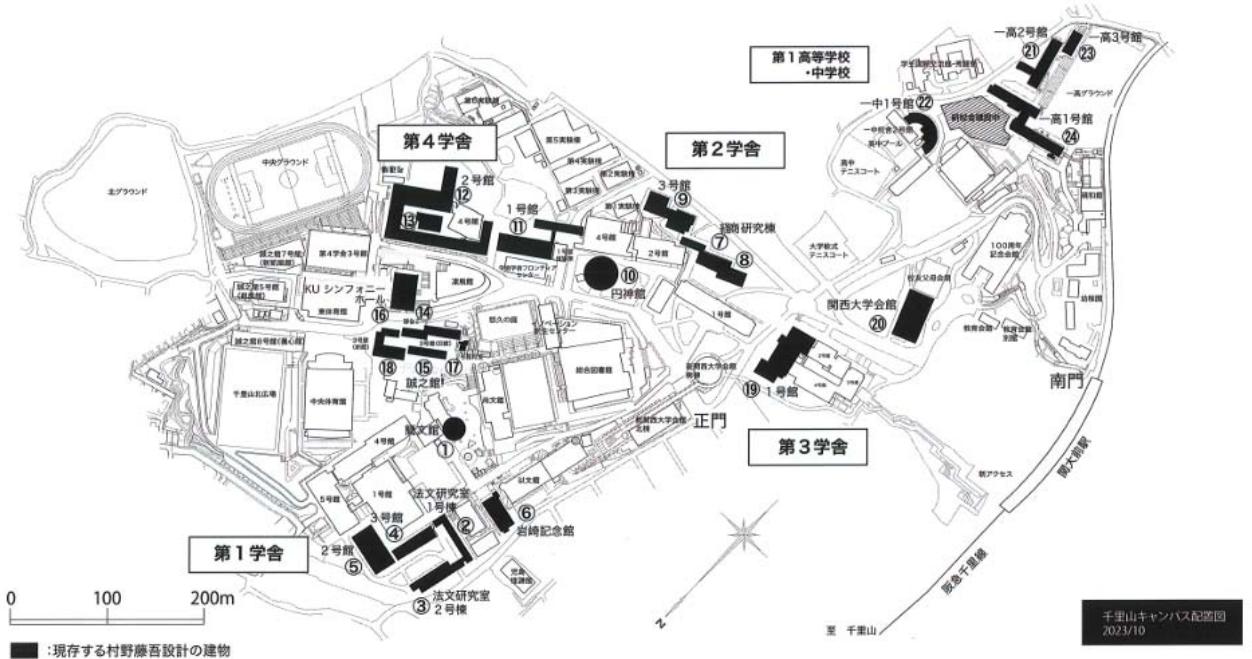
日時： 令和6年2月24日（土） 14:00～16:10

場所： 関西大学千里山キャンパス

受講料： 会員 1000 円、会員外 2000 円

参加者： 13名（会員 12名、非会員 1名）

講師： 橋寺知子 関西大環境都市工学部准教授



■ :現存する村野藤吾設計の建物

第1学舎エリア

- 1：簡文館（図書館）（1955年）
- 2：法文研究室1号館（1955年）
- 3：第1学舎（法文学舎）2号館（1967年）
- 4：第1学舎（法文学舎）3号館（1967年）
- 5：法文研究室2号館（1967年）
- 6：岩崎記念館（大学院新学舎）（1974年）

第2学舎エリア

- 7：経済学部商学部研究棟（1966年）
- 8：経済学部商学部研究棟（社会学部研究室）（1968年）
- 9：第2学舎3号館（1967年）
- 10：円神館（専門図書館）（1964年）

第4学舎エリア

- 11：第4学舎1号館（1960年）
- 12：第4学舎2号館（1964～69年）
- 13：第4学舎2号館大教室棟（1964年）
- 14：誠之館2号館（1962年）
- 15：誠之館3号館（1962年）
- 16：KUシンフォニーホール（特別講堂）（1962年）
- 17：誠之館3号館和室（1963年）
- 18：誠之館3号館新館（1968年）

第3学舎エリア

- 19：第3学舎1号館（社会学部）（1968年）
- 20：関西大学会館（1965年）
- 一高・一中エリア
- 21：一高校舎2号館（第一高等学校校舎）（1953年）
- 22：一中校舎1号館（第一中学校校舎）（1957年）
- 23：一高校舎3号館（高中理科特別教室）（1966年）
- 24：一高校舎1号館（第一高等学校新校舎）（1980年）

意匠設計者のための設備講習会

主催：(公社) 兵庫県建築士会 神戸支部 研修委員会

■開催日時： 令和6年3月6日（水） 18:30～20:00

■開催場所： (公社)兵庫県建築士会 神戸支部事務所

■講習内容： 講師：株式会社黒田建築設計事務所 山本 要氏

意匠設計者のための設備設計について、設備設計を専門にされている専門家により、基礎からもう一度勉強することを目的とした講習会です。

設備設計者から、意匠設計の時にどのような配慮や注意が必要か、設備設計とはどのように実施されているのかなど、教えて頂きました。

■参加者： 21名（会員18名、会員外3名）

■参加費： 会員1,000円、会員外2,000円

当日は、多くの方々に参加していただきました。

この講習会は、意匠設計者のための設備講習会と題して、意匠設計者が普段からいろいろと問題にしている設備設計について、基礎からもう一度勉強しようという発案から企画されたものです。意匠設計者にとって、設備設計というのは結構ハードルの高い内容であり、いつも苦労し、どうしていいか分からない分野でもあると思います。そこで、設備設計を専門にされている専門家から、いろんなアドバイスをいただけたら今後の設計活動に役立つのではないかと思いました。

実際の講習会の内容は、設備について広範囲にわたり、設計申請時・監理時における注意点を説明して頂き、時間が足りないぐらいでした。設備設計というものが、非常に奥が深いものであることを再認識し、今後も引き続き学んでいかなければと感じました。

設備に関する講習会は、今まで要望がありましたが、なかなか実現できなかった分野でもあり、これを機会にもう少し詳細な講習会も開催できたらと考えています。

(文：佐々木)



事業報告シート							
事業分野	もの・まち・くらし・その他			作成日	令和5年5月29日		
事業名称	公益社団法人 兵庫県建築士会 神戸支部総会 特別講演会						
開催日時	令和5年4月22日（土） 14：30～16：30		開催場所	神戸市産業振興センター			
ふりがな	(こうえきしゃだんほうじん) ひょうごけんけんちくしかい こうべしぶ せいねんいいんかい						
活動団体名	(公益社団法人) 兵庫県建築士会 神戸支部 青年委員会						
事業の目的	広く参加者を募ることにより、建築士会の活動を多くの方へ知っていただく場としたい。 講師については建築家で住宅を主に手がけられている横内建築設計事務所の横内敏人（よこうち・としひと）氏を招き、幅広い年齢層の集客を図り、会員拡大及び活動参加拡大の広報活動の場としたい。また、活躍されている講師の講演を聞くことにより、個々の意識向上につなげる事を目的とする。						
主な事業内容	<p>テーマ：『住宅の変わるところ変わらないところ』 講 師；横内敏人 1978年 東京芸術大学美術学部建築科卒業 1978年～80年マサチューセッツ工科大学建築学科大学院にて環境心理学を専攻 1983年～87年前川国男建築設計事務所（東京都新宿区）勤務 1991年（8月）横内敏人建築設計事務所（一級建築士事務所）設立 2000年～2013年京都造形芸術大学（京都市左京区）環境デザイン学科教授 2013年～京都造形芸術大学（京都市左京区）環境デザイン学科特任教授 </p>						
参加者	内訳	青年会員	一般会員	会員外	その他		
会場	人数	5	40	21	0		
ライブ配信視聴	人数				55		
建築士の関り	建築士として著名な建築家の選出から始まり、事務所へのオファー、回答を得られるまでの過程を通じ、他の事務所の対応や建築家との関わり方等、日々行う業務に於いても、学ぶべき要素が多い機会と考え、この事業に関わっていきたい。						
今後の検討課題	今回の講師については、関西で建築作品があり、見学会を行うことのできる建築家を講師にお迎えした。参加人数は多く、好評であった。広報は、広報手段として、A4チラシ及び雑誌集い1500部配布とSNS発信を行ったが、十分であった。広報についてはこの調子で、広報活動できるように努力していきたい。ZOOM参加のための電子機器等の対応に、ギリギリまで追われたため、青年委員会委員全員がZOOM対応できるように講習等行うこともよいかもしない。建築見学会と講演会後の動画配信に関しては、講師依頼希望の段階で講師に伝えることとしたい。						
連携・協力組織等	横内敏人建築設計事務所						
当日の様子							
<p>今回の講演では、建築作品に対して 自身の経験に基づく哲学の下で、日本という国の 伝統や歴史、美意識を変わらないものの軸として、技術等の変わるものと身にまとめて設計活動をおこなっているという話が印象的でした。 森林面積が多い日本においては、木造の建築が適しており、雨の多い日本の気候は 屋根が大切であり、また庭に面していて開放的であるということが 変わらないものの軸としては大きい と考えている。 とのことでした。その他スライドを交えてお話を聞きながら、基本を丁寧に積み重ねて 横内建築ができあがってくるのだろうなと思われ感銘を受けました。また、最後の質疑応答ではZOOM聴講からの多くの質問があり、講師の先生も大変熱のこもったお話となりました。十分に盛り上がりを見せた講演会となりました。</p>  							
事業担当(計画)者	高橋利郎（青年委員会）		事業責任者	高麗憲志（青年委員会・委員長）			
事業担当者連絡先			神戸支部所在地	神戸市中央区古湊通1-2-12 古湊ビル 2階			
事業担当者 E-mail			青年部URL	http://www.kobe-kenchikushikai.com/seinen			

事業報告シート							
事業分野	もの・まち・くらし・その他			作成日	令和5年8月15日		
事業名称	親子セミナー「まなぼ！つくろ！わりばしとわごむで”夢の家”」						
開催日時	令和5年7月29日（土） 13：30～16：30		開催場所	すまいるネット セミナールーム			
ふりがな	(こうえきしゃだんほうじん) ひょうごけんけんちくしかい こうべしふ せいねんいいんかい						
活動団体名	(公益社団法人) 兵庫県建築士会 神戸支部 青年委員会						
事業の目的	小学生親子を対象とした市民向け建築スクールの一環として、ものづくりの楽しさに触れるきっかけとなることを目的に行う。「神戸市住まいの安心支援センター」の委託継続事業。						
主な事業内容	第一部では日本や世界の夢のある建物のスライド講義を通じて、住まい（家）の多様な形態について学びます。 第二部では、割りばしと輪ゴムを使って子供たちが思い描く「夢の家」の工作に挑戦。最後に子供一人ひとりに夢の家建築士認定証を発行します。						
参加者	内訳	青年会員	一般会員	会員外	小学生 合計		
	人数				17 17		
建築士の関り	親子が一緒になってモノつくり体験で、夢の仮想の姿を現実の形として造形し、創造すること、モノを造ることの楽しさを育み体感して頂くことが出来ればと考えている。						
今後の検討課題	わりばしとわごむの事業を行いました。今年も好評で、応募人数は、最終的には32組の申込があり、抽選で20組（子ども25名）となりました。ただ、当日キャンセルなどがあり、最終的には17組、19人の参加となりました。今年は、低学年が多くなったが、積極的な子供が多く、バリエーション豊かな作品が出来た。今年も思い思いの夢のある家づくりができたと思います。割りばしから立体的なものを作るのは難しいかと思いますが、各自様々な面白い形が出来上がりました。今年も、模造紙に道や公園を書いて、そこにみんなの家を置いてひとつの町を作りました。						
連携・協力組織等	(一財) 神戸住環境整備公社 (すまいるネット)						

当日の様子

- わりばしの企画6回目です。今年もブランコのある家、水槽の中の家、動物と暮らす家など個性的な家が多く出来ました。
- 図面枠を印刷して各自配りました。
- わりばしの接合は難しいところもあったようですが、様々な立体の家が出来ました。



事業担当(計画)者	寺田みさと (青年委員会)	事業責任者	高麗憲志 (青年委員会)
事業担当者連絡先		神戸支部所在地	神戸市中央区古湊通1-2-12 古湊ビル2階
事業担当者E-mail		青年部URL	http://www.kobe-kenchikushikai.com/seinen

事業報告シート										
事業分野	もの・まち・くらし・その他		作成日	令和5年12月13日						
事業名称	第30回 建築セミナー									
開催日時	令和5年12月9日（土） 7:45～20:00		開催場所	岡山県						
ふりがな	(こうえきしゃだんほうじん) ひょうごけんけんちくしかい こうべしふ せいねんいいんかい									
活動団体名	(公益社団法人) 兵庫県建築士会 神戸支部 青年委員会									
事業の目的	令和6年度特別講演会内でご講演いただく神家昭雄氏の設計による4作品（下記）を事前に見学することで、作品及び講演の理解を深める。その他に、岡山市の著名な建築 Junko Fukutake terrace(SANAA) の視察を主な目的とする。これらの見学を通じ、建築士としての意識向上、会員交流を図る。									
主な事業内容	岡山県の建築視察 1.牛窓のヴィラ現場 2.神家昭雄建築研究室 3.里山田サテライトオフィス 4.みかわテラス 1～4設計:神家昭雄 5. Junko Fukutake terrace (SANAA)									
参加者	内訳	青年部会	士会員	会員外	学生					
	人数	4	9	2	5					
	合計 20									
建築士の関り	岡山県内の神家昭雄氏の設計設計事務所を含む4作品及び、著名な建築を視察することにより、新しい建築の知見を得ると共に、竣工から数年経過した現状の施設がどのように使われているかを考察する。									
今後の検討課題	集合場所が神戸市役所花時計前だったが、花時計が移設されており、そちらで待ってた人もいた。また、当日出発時間に来てない人が1名いた、携帯に連絡するも繋がらず、留守電にメッセージを入れてやむを得ず出発した。参加者は、計画時の28名より少なく、20名だった。視察する建物規模からすると、多過ぎずに適正だったと思われる。タイトなスケジュールだったので、若干あわただしかった。みかわテラスからJunko Fukutake terraceに行くのが予定より30分時間が掛かり、17:00の閉店までに間に合わなかった。しかし、お店の好意で中に入れてもらえ、お菓子なども買うことが出来た。結局、三宮到着が15分程遅くなってしまった。									
連携・協力組織等	神家昭雄建築研究室									
当日の様子										
1～4の建物では、設計者の神家昭雄先生も同行してくれて、詳しく説明していただきました。										
5. Junko Fukutake terrace(SANAA)は、暗くなってから着いたため、昼間とは違う表情を見ることが出来た。										
照明計画も面白かった。										
  										
  										
事業担当(計画)者	川田靖(青年委員会・委員)		事業責任者	高麗憲志 (青年委員会・委員長)						
事業担当者連絡先			神戸支部所在地	神戸市中央区古湊通1-2-12 古湊ビル2階						
事業担当者E-mail			青年部URL	http://www.kobe-kenchikushikai.com/seinen						

表紙写真：東遊園地（神戸市提供）